

2015年2月5日

株式会社IHI

「2014年度 第3四半期決算」テレフォン・カンファレンス 主な質疑応答

1. 通期の営業利益予想の前回見直し（2014年11月5日公表）からの変動要因について

・以下①～④の事由を織り込んだ結果、前回見直しから+50億円の上方修正となった。

営業利益の要因分析(前回見直しとの差異)

単位:億円

	為替変動	工事採算変動	売上増減	販管費変動	計
資源・エネルギー・環境	40	①△20	0	0	20
社会基盤・海洋	0	②△60	0	0	△60
産業システム・汎用機械	10	0	0	0	10
航空・宇宙・防衛	50	③20	0	④10	80
その他	0	0	0	0	0
調整	0	0	0	0	0
計	100	△60	0	10	50

① 工事採算変動▲20億円の主因

・国内ボイラ工事で採算が悪化した部分をコスト先出とし、請負金増額を目指していたが、その決着が一部期ズレする見込みであることによるもの。

② 工事採算変動▲60億円の主因

・愛知工場で製造しているシンガポール向けドリルシップ船体工事の採算悪化と愛知工場の操業悪化によるもの。

③ 工事採算変動+20億円の主因

・利益率の良いスペアパーツの売上増加と子会社の改善によるもの。

④ 販管費変動+10億円の主因

・費用発生の期ズレによるもの。

2. 受注工事損失引当のセグメント別の繰入・取崩・残高は？

・下表のとおり。

単位:億円

	2014.3 月末 残高	2014.1-3Q 累計		2014.12 月末 残高
		繰入	取崩	
資源・エネルギー・環境	117	65	53	129
社会基盤・海洋	35	①79	36	78
産業システム・汎用機械	31	9	15	25
航空・宇宙・防衛	0			0
その他	1			1
調整	△1	1		0
計	183	154	104	233

① 2015.3 期 3Q (10-12 月) での繰入額は約 49 億円である。

3. ボイラと海洋構造物の工事採算の悪化分は、2015.3 期 3Qで計上されたものか？
- ・両方とも 2015.3 期 3Q までの間にコストとして織り込んでいる。海洋構造物については、これから発生が見込まれている愛知工場の操業差損分が含まれている。
4. 社会基盤・海洋事業の採算変動△60 億円は売上規模の割には大きな額だと思うが何があったのか？2016.3 期以降、売上高の増加が予想されているが、採算性についてはどの様に考えたら良いのか？
- ・売上規模に対して悪化額が大きい要因としては、シンガポール向けドリルシップの船体工事が赤字となり、現段階で見えている将来の悪化分も受注工事損失引当金として計上しているため。この工事は 2014.3 期に受注したドリルシップの船体工事であり、お客さまにとっても、IHI にとっても初めてのドリルシップである。昨年、設計、加工を開始した後に、想定外の膨大な改正図面がお客さまから出てきた。そのため、設計の見直しや加工工数の見直し等が発生しており、このコスト増加を精査した結果、2015.3 期 3Q に織り込むこととなった。今後発生すると思われる追加コストを織り込んだ上で、受注工事損失引当金を計上しているため、来期以降については、損失の計上はない見込みである。
 - ・また、これらの混乱の影響によって工程が遅れ、愛知工場の操業差損が拡大している。
5. 愛知工場の操業差損は、いつ解消するのか？
- ・現在受注している工事の工程が遅れているため、2015.3 期は操業差損が発生している。来月から SPB タンクの加工を開始するので、2016.3 期は期初から操業は回復すると見ているが、一部投入が遅れている案件もあるので、操業状況を引き続き注視する必要がある。
6. 橋梁事業における「国内の高難度工事」は今期で収束しているのか？
- ・2014.3 期決算で高難度工事対応による悪化があったが、2015.3 期 3Q までに堺工場の混乱は収まっている。
7. 2015.3 期 1-3Q累計でのターボチャージャーの利益率は？ 生産拠点の各地域の状況は？
- ・利益率は非開示とさせていただいているのでご理解いただきたい。
 - ・地域の状況としては、タイで販売台数、売上高ともに減少し、欧州では販売台数、売上高ともに増加している。欧州は来年度以降も販売台数、売上高ともに増加する見込み。これまでは生産性改善に伴う一時的な追加費用が発生していたが、通常の状態にようやく戻ってきた。
8. 航空・宇宙・防衛事業の研究開発費の出方は？
- ・2015.3 期から発生している新型エンジン開発費用のうち、10 億円は想定よりも費用発生が遅れ、来期に計上されることが濃厚となった。この部分は 2016.3 期の業績に対して 10 億円の悪化要因となるが、全体でカバーしていく。同事業全体での研究開発費は 2016.3 期も 2015.3 期と同様の高い水準で推移する見込みである。

9. 保証工事引当金が膨らんでいるが、特筆すべきことは？

- ・保証工事引当金が膨らんでいる要因は、民間航空エンジンを中心に、IHI グループ全体の売上増加に伴う保証工事引当金の増加によるものである。

10. 税制改正の影響額について。

- ・2015 年度税制改正大綱が 1 月 14 日に閣議決定されたこともあり、年度内に法制化されると考えている。実効税率が引き下げられた場合の繰延税金資産の取崩しに伴う 60 億円の税金費用の増加を織り込んでいる。

11. 原油安の影響はIHIにとってプラスサイド、マイナスサイドのいずれか？

- ・原油安の影響は多岐に渡るので、一概には言えない。燃料安が当社の事業運営に与える直接的影響は少ないものの、例えば米国のシェールガスやシェールガス由来のケミカルプラントの商談においては FS (Feasibility Study=事業可能性検討) や FEED (Front End Engineering Design=概念設計・FS 後の基本設計) で遅れが発生する可能性がある。
- ・エアラインにとって原油安は好材料だろうが、短期的な原油安で民間航空エンジン需要が拡大するとは言えず、もっと長期的な動向を見なければならぬと思う。

12. 原油価格下落による悪影響は、ペトロbrasやブラジル経済の影響を受けるアトランチコスル造船所 (以下、「EAS」) では大きいと思うが、減損のリスクは？

- ・2015.3 期 3Q の時点では、EAS の最新損益見通しを、PL の持分法投資損益として織り込んでいる。
- ・今後、ブラジル経済の状況と EAS の今後の業績動向を総合的に勘案し、EAS への投資については評価される。

13. F-LNG・海洋構造物の 2015.3 期受注見通しを、従来から下方修正している一方で、社会基盤・海洋事業の受注見通しは横ばいである。どのサブセグメントで受注が増えているのか？ また、産業システム・汎用機械事業ではターボチャージャーの 2015.3 期売上高見通しは横ばいだが、同事業で受注見通しが 100 億円の上方修正となっている要因は？

- ・社会基盤・海洋事業では、F-LNG・海洋構造物で受注の期ズレが約 100 億円あったが、子会社の受注が好調であり、セグメント全体での見通しは変えていない。また、産業システム・汎用機械事業では、海外子会社による受注金額が為替の換算による影響で約 100 億円増加する見込みであり、その結果として上方修正となった。

以上